

科目名	卒業研究ゼミ2（卒業必修）				
授業形態	演習	学年	2		
開講時期	2022年度 前期～後期	単位数	2		
担当教員	木谷 耕平				
内容および計画	<p>経済学は人間の様々な意思決定や資源配分の方法を考える学問であり、その分析対象は幅広い。このゼミでは、経済学の考え方に基づいて、各自が関心を持つ社会問題について研究し、卒業研究の完成を目指す。前期は、各自が関心を持つテーマを決め、そのテーマについて何がすでにわかっている、何がまだわかっていないのかを明らかにする。そのために各自で先行文献を調査・精読し、その成果をゼミで発表してもらう。先行研究調査を踏まえ、研究テーマと分析手法を決定する。後期は各自で研究を進め、その成果をゼミで共有し、議論する。毎週または隔週で研究の進捗状況を報告してもらう予定である。</p>				
1	イントロダクション：ゼミの進め方				
2	研究とは何か。研究の進め方。				
3	文献調査の方法				
4	先行研究の報告・議論①				
5	先行研究の報告・議論②				
6	先行研究の報告・議論③				
7	先行研究の報告・議論④				
8	先行研究の報告・議論⑤				
9	先行研究の報告・議論⑥				
10	先行研究の報告・議論⑦				
11	先行研究の報告・議論⑧				
12	調査・分析の方法：アンケート調査の進め方				
13	調査・分析の方法：統計分析の方法①				
14	調査・分析の方法：統計分析の方法②				
15	研究計画の作成				
16	研究論文の作法				
17	研究の進捗状況の報告と議論①				
18	研究の進捗状況の報告と議論②				
19	研究の進捗状況の報告と議論③				
20	研究の進捗状況の報告と議論④				
21	研究の進捗状況の報告と議論⑤				
22	研究の進捗状況の報告と議論⑥				
23	研究の進捗状況の報告と議論⑦				
24	良いプレゼンとは：プレゼンテーションの方法				
25	中間報告会				
26	研究の進捗状況の報告と議論⑧				
27	研究の進捗状況の報告と議論⑨				
28	研究の進捗状況の報告と議論⑩				
29	研究の進捗状況の報告と議論⑪				
30	研究の進捗状況の報告と議論⑫				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年

特定の教科書は指定しない。

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小浜裕久・木村福成 『経済論文の作法 第3版』 日本評論社、2011年 ・ 佐渡島紗織・坂本麻裕子・大野真澄 『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』 大修館書店、2021年 ・ 西山敏樹・鈴木亮子・大西幸周 『データ収集・分析入門』 慶應義塾大学出版会、2014年 ・ 山本勲 『実証分析のための計量経済学』 中央経済社、2016年
------------	--

成績評価	
評価方法	割合(%)
ゼミ活動への貢献度	15
卒業研究への取り組みと論文の完成度	70
卒業研究発表会におけるプレゼンテーション	15

学習到達目標	<p>以下の3点を到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 研究計画を立案し、実行できる。 ② 学術的な論文を執筆できる。 ③ 研究成果を効果的にプレゼンすることができる。
先修条件	卒業研究ゼミ1を履修済みであること。
実務経験	
その他	特別な事情のない欠席や遅刻は厳禁。